

森下ゼミナール活動月報《7月》

【光通信技術展に参加して】

こんにちは、1部26期生の木村拓郎です。今回は、6月30日(木)に東京ビッグサイトに開催された第22回光通信技術展について、ご報告いたします。

光通信技術展は、RX Japan 株式会社主催による、商談を目的とした展示会ですが、株式会社七星科学研究所様（以下、当社）のご好意により、見学させていただきました。当社の展示ブースにて、①メディアコンバーター-ギガイーサネット光通信機、②接点光通信機器という機器についての説明をして頂きました。①は主に遠隔監視システムに使われ、②は複数の接点信号を光信号に変換し、光ファイバ1芯で伝送することを可能にしたユニットです。これらは、主に鉄道や空港といった重要なインフラ業界において、接点信号の長距離化や落雷・ノイズ対策に使われています。豆知識として、落雷対策に使われるほど高性能な光ファイバの唯一の天敵となるのが、これからの時期に登場する「セミ」です。光ファイバを枯れ木と勘違いしたセミが、そこに卵を産むために産卵管を突き刺してしまい、断線して通信障害の原因になっているそうです。

また、当社の情報通信事業部長の大島様からは、光通信技術展に出展するようになった経緯や、これからの人生設計についてのご指導も頂き、大変勉強になりました。

今回の技術展では、光通信以外にも5G通信技術、映像伝送、4K・8K映像技術、ローカル5G/IoT技術展も併設されており、見学することができました。私たちの生活の基盤には「技術」が至るところにあります。製品が完成するまでの過程にある、日常生活では目に見えない部分を想像し、より技術に興味・関心を持ち、知識を深めることの必要性を実感した1日でした。



【26期生 木村拓郎】

【春季視察調査・新人強化合宿に参加して】

こんにちは、26期生の今村咲子です。この度は、3月2日（水）から4日（金）に実施した春季視察調査・新人強化合宿についてご報告致します。

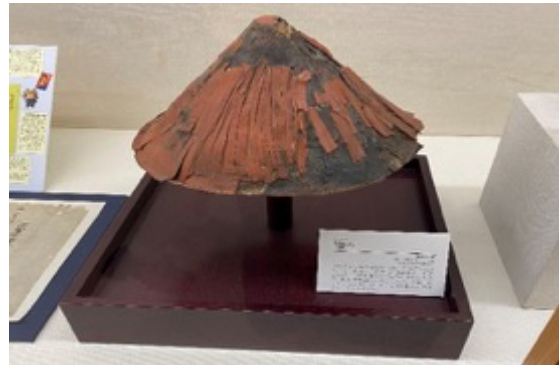
初日は、明治大学駿河台校舎にて新人研修を行いました。私たち26期生にとって初めての視察調査・企業訪問となるため、名刺の渡し方や手紙やメールの書き方、敬語の使い方などを先輩方に教えていただきました。

2日目は、11の班に分かれて視察調査を行いました。私は小田原へ視察して参りました。具体的には、倭紙茶舗、漁港TOTOCO小田原、なりわい交流館、かまぼこ通り、小田原郷土文化館、報徳二宮神社、小田原城、漬物・佃煮・惣菜工房、中央通り商店街へ足を運び、小田原の風土や文化について調査を行いました。

小田原のランドマークともいえる小田原城の天守閣内には、小田原城の歴史に関する資料の展示が行われています。この展示では、4カ国語での表記や点字での解説、映画風の映像展示など、どんな方でも楽しく学ぶことができる工夫が施されていました。また、城内にある小田原郷土文化館は、1945年に神奈川県立婦人職業専修訓練所として建設された歴史ある建物です。現在は小田原の歴史や自然、文化を後世に伝え、継承するための資料館として使用されています。当館の1階には歴史資料室、文化人資料室、考古資料室があり、2階には民俗資料室、自然科学資料室があります。幅広い分野の資料が展示されているため、小田原についての知見を広げるために小学生や観光客が訪れていました。

小田原城に程近いかまぼこ通りは、かつてほどの繁栄を見ることはできませんでしたが、地域活性化のための活動として、市や県、観光協会などにより多くのイベントが定期的で開催されています。

今回、初めて視察調査に参加させていただき、その土地の歴史や伝統を継承し、残していくことの大切さを知ることができました。また、今回の合宿を通して、社会人になるために必要なスキルも学びました。これらのことを今後のゼミ活動でも活かしていきたいと思えます。



【26期生 今村咲子】

【留学風景】

明治大学政治経済学部経済学科

森下ゼミナール 24 期

鈴木みな

2022 年 1 月に日本を発ち 3 カ月が経ちました。バンクーバーでの生活にも慣れ、今ではマップを見ずに目的地まで辿り着ける程です。しかし、慣れ親しんだ道でも、さすがは海外と言わんばかりに予想だにしない出来事が次々と起こります。あくびしながら道を歩いていると必ず声をかけられる状況を誰が想像できますでしょうか。「眠そうだね！いい夢見てね！」そのおかげか危機管理・自己管理能力については十分な学びが得られていると自負しています。

カナダはバンクーバーには世界中から人が集まります。その中でも移民としては中国人やフィリピン人インド人が多く、学生はメキシコ人や韓国人そして日本人が多い印象です。それぞれが独自の文化をもっているため、それに合わせるように、あらゆる国の文化が入り混じった雰囲気がバンクーバーにはあります。韓国料理屋の隣にメキシカン料理屋が、その隣には日本料理屋その隣はインド料理屋といったように食文化ひとつをとってもその様子が見て取れます。

バンクーバーは日本と比べて物価が非常に高いです。それに比例して賃金も非常に高い水準を維持しています。現在、最低賃金は 1 時間 15.5\$ で、日本円で 1 時間約 1500 円という換算です。このような高水準な状況下でも浮浪者の数は全く減少せず、街のいたるところにそういった方たちが見受けられます。次は住居についてです。バンクーバーには 11dk や 1k といった 1 人用の賃貸はほとんどありません。そのため、留学生はホームステイかシェアハウスの 2 つの選択肢から選ぶこととなります。パーソナルスペースが比較的広い日本人にとっては由々しき事態ですし、異国の地で住居を探すのは非常に大変で、そこで初めて自分が外国人であることを自覚しました。公共交通機関、特にスカイトレイン(電車のようなもの)では日本とは異なり、運転手に加え駅員もいません。すべて自分で解決しなければならないサバイバル状況です。

現在バンクーバーではあらゆるコロナ規制が緩和され今まで義務付けられていたマスクの着用等が撤廃されました。また、レストラン等への入店の際のワクチン証明書の提示も不要となりました。

私は現在バンクーバーで co-po 留学をしています。これはビジネスを座学とインターンシップを通して学ぶというものです。バンクーバーでは学生用のビザでも週に 20 時間アルバイトができますし、インターンシップが始まれば co-po 用のビザに切り替え週に 40 時間働くことができます。これは留学しながら生活費を捻出したい人やビジネス英語を学びたい学生向けの留学スタイルです。その中で私はカスタマーサービスのマネジメントにつ

いて学んでいます。先月はサービスを提供する個々人の能力について研究しました。いかにして個人の能力を伸ばし、現場に生かすのかを具体的な例を交えて学びました。授業の他には週に1回個人のプレゼンテーションと月に1回グループのプレゼンテーション、作文の課題、そしてテストがあります。もちろん授業への出席は当然ですが、特にノートテイク等に関する決まりはなく、先生も板書することはほとんどありません。そのかわり、生徒同士で議題についてディスカッションする時間が多く設けられているため、英語を使ってのコミュニケーションはもちろんのこと、物事に対する“自分の考え”そしてそれを積極的に共有しようとする姿勢が求められます。

3 カ月間バンクーバーで過ごし、人々のやさしさを感じました。これからはバンクーバーの人々にとって価値のある人財をめざします。

【24期 鈴木みな】